

ビジネス・ブレイクスルー大学 2021年第1回 第三者評価会議（教学）

日時	2021年 12月9日（木）11:00～12:00
場所	オンライン
議題	1. 【報告】前回（2018年度）認証評価結果のご報告 2. 【報告】前回（2018年）開催時以降の本学の新たな取り組み並びに現状のご報告 3. 【議論】委員の方から見える本学の課題や、教育の質向上に向けた本学の取り組み・マーケティング活動について
出席	徳中 暉久 委員、山田 英夫 委員 門永副学長、宇田副学長・学部長、柴田事務総長、 【内部質保証室】石井教員、新垣教員、白崎事務局長、香田副事務局長、北教務部長、石黒教務部長

【議事骨子】

- ・ 議長は、本学における機関別認証評価、経営系専門職大学院認証評価に関し、結果のご報告及びこれまでの改善事項について、説明を行った。
- ・ 前期（第2期）の経営系専門職大学院認証評価は不適合であったが、今期（第3期）は前期において指摘された事項の改善活動が認められ、適合の結果を受けた。今後も継続して、教育の質保証サイクルの精度をより高めていく。
- ・ その後フリーディスカッションの形式にて、忌憚のないご指摘やご助言を頂く中で、以下の論点が浮かび上がった。議長及び大学側参加者は、次回までに下記の論点について方向性を検討することとした。

1. 機関別認証評価・経営系専門職大学院認証評価結果

経営系専門職大学院認証評価の適合に至るまでのプロセスに関しては、ご指摘を受けた課題の解決に対し、真摯に取り組んだ結果であると言える。今後も継続することが必要である。

2. 教員編成に関する方策

研究者教員数は前回の第三者評価会議以後、補強されており、良い傾向である。

一般的に、論文を量産するのは若手の研究者が多いことから、一律的に論文数を課すのは、持続性の観点から難しい。年齢を重ねると論文よりも著書に重きを置く方も多いので学校の全体最適をみてポートフォリオを組む必要がある。

カリキュラムの側面からは、研究家教員が実務を教えることと、実務家教員が理論を教える

ことに対する課題意識は他大学にも存在する。カリキュラムにおける研究者教員と実務家教員の役割を、継続的に議論する必要がある。

3. データサイエンスの取り組み

AI 等のデータサイエンスが日本の競争力の為に重要と認識していることから、学内システムである AirCampus に顔認証システムや個々人の学習傾向に応じた動画レコメンドシステム等、精力的に導入している。また、学部の講座についてはデータ・サイエンティストになる為の講座に加え、UX/UI 系の講座も準備している。しかし、データサイエンスを教えることのできる教員が日本には少なく、教員編成に対しては困難な点も多い。データサイエンス科目の拡充及び教員の確保は今後も継続的におこなっていくべきである。

以上